

PAT-NO: JP405286469A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 05286469 A  
TITLE: GLOVE BAR MOUNTING STRUCTURE FOR MOTORCYCLE  
PUBN-DATE: November 2, 1993

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME  
YOKOMIZO, SUSUMU  
TAKANO, KIYOTAKA

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
YAMAHA MOTOR CO LTD	N/A

APPL-NO: JP04114054

APPL-DATE: April 7, 1992

INT-CL (IPC): B62J001/28

## ABSTRACT:

PURPOSE: To set a projecting amount of a glove provided to project outward from a car body cover low without giving difficulty to grip to a driver.

CONSTITUTION: A fuel tank 18 and seat 20 on which two riders are seated are disposed from a steering handle 9 to the rear on the upper part of a car body frame 2. While the rear of the car body frame 2 is covered with a car body cover, a recess 21a located in the proximity of the rear seat of the seat 20 is provided on the car body cover, and a glove bar 28 is provided in the recess 21a.

COPYRIGHT: (C)1993, JPO&amp;Japio

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-286469

(43)公開日 平成5年(1993)11月2日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

B 62 J 1/28

識別記号 庁内整理番号

C

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全7頁)

(21)出願番号 特願平4-114054

(22)出願日 平成4年(1992)4月7日

(71)出願人 000010076

ヤマハ発動機株式会社

静岡県磐田市新貝2500番地

(72)発明者 横溝 晋

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機  
株式会社内

(72)発明者 高野 清尊

静岡県磐田市新貝2500番地 ヤマハ発動機  
株式会社内

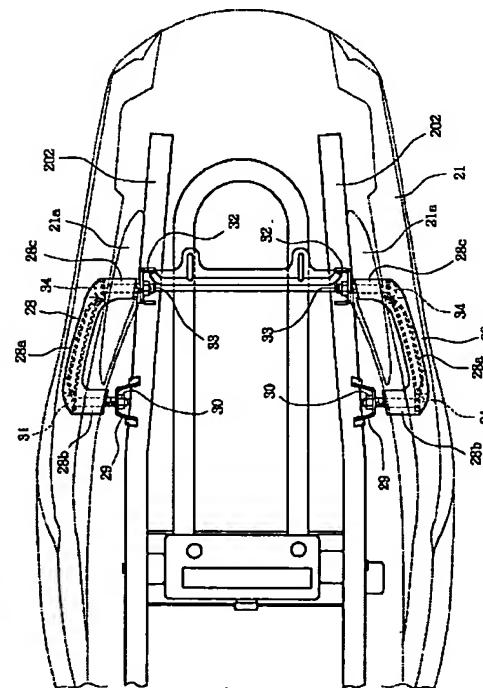
(74)代理人 弁理士 鶴若 俊雄

(54)【発明の名称】 自動二輪車のグラブバー取付構造

(57)【要約】

【目的】 車体カバーから外方へ突出して設けられるグラブバーの突出量を、乗員による掴みにくさを生じることなく、低く設定することを目的とする。

【構成】 操向ハンドル9から後方へ燃料タンク18と乗員の着座する二人乗り用のシート20とを車体フレーム2の上部に配置し、この車体フレーム2の後部を車体カバーで覆うと共に、シート20の後席近傍に位置して車体カバーに凹部21aを設け、その凹部21aにグラブバー28を設置している。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 操向ハンドルから後方へ燃料タンクと乗員の着座する二人乗り用のシートとを車体フレームの上部に配置し、この車体フレームの後部を車体カバーで覆う自動二輪車において、前記車体カバーの前記シートの後席近傍位置に凹部を設け、この凹部にグラブバーを配置したことを特徴とするグラブバー取付構造。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、後席に乗車する乗員が体を支えるために把持するグラブバーを取付ける自動二輪車のグラブバー取付構造に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】自動二輪車には、例えば操向ハンドルから後方へ燃料タンクと乗員の着座する二人乗り用のシートとを車体フレームの上部に配置し、この車体フレームの後部を車体カバーで覆うものがある。この二人乗り用のシートは、前側に運転席を有し、その後ろに後席を有し、そこに運転者以外の乗員が乗車できるようになっている。また、図15及び図16に示すように、その後席近傍の車体カバー100には車両の走行中、後席に乗車した乗員が自分の身体を支えるための把手として、いわゆる、グラブバー101がボルト102で取付けられている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、グラブバー101は車体カバー100から両側へ突出しているため、車両の停車中、運転者が車両に跨がろうとして脚を後方へ上げるとき、脚が引っ掛けたり乗りにくくなることがあり、この傾向は車高の高い車両ほど顕著であった。このような不具合は、例えばグラブバーが車体カバーから外方へ突出する量を可及的に小さく設定すれば解消可能であるが、そのような手法は後席の乗員によるグラブバーの握り易さを損なう不具合があった。

【0004】この発明は、かかる点に鑑みてなされたもので、グラブバーが車体カバーから両側へ突出することを軽減すると共に、グラブバーの握り易さを確保する自動二輪車のグラブバー取付構造を提供することを目的としている。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するために、この発明のグラブバー取付構造は、操向ハンドルから後方へ燃料タンクと乗員の着座する二人乗り用のシートとを車体フレームの上部に配置し、この車体フレームの後部を車体カバーで覆う自動二輪車において、前記車体カバーの前記シートの後席近傍位置に凹部を設け、この凹部にグラブバーを配置したことを特徴としている。

## 【0006】

【作用】この発明では、車体カバーのシートの後席近傍

2

位置に凹部を設け、この凹部にグラブバーを配置することで、グラブバーが車体カバーから突出することを抑えることができ、車両の停車中、運転者が車両に跨がろうとして脚を後方へ上げるとき、脚が引っ掛けたことがなくなる。また、シートの後席近傍位置に設けた凹部にグラブバーを配置することで、この凹部でグラブバーを把持するスペースが確保され、グラブバーが握り易い。

## 【0007】

【実施例】以下、図示の実施例によって、この発明を説明する。図1において、1は主として路上走行を目的とする路上走行用の自動二輪車である。この自動二輪車1の車体フレーム2は、その前部が前フォーク3を介して前輪4に支持され、その後部がリヤアーム5を介して後輪6によって支持されている。この車体フレーム2にはエンジン7が搭載され、このエンジン7でチェーン8を介して後輪6を駆動する。

【0008】車体フレーム2はいわゆるクレードル形であり、操向ハンドル9を支持する操向軸管10から後方へ伸びる左右一対の主枠200と、下方へ伸びる左右一对のダウンチューブ201とを有し、この両者は後端部近傍で再び連結されている。車体フレーム2の要部をなす主枠200は鋼板やアルミニウム合金板をプレス成形し溶接して構成された水平部200aと、この水平部200aの後端に溶接され、そこから下方へ伸びる垂直部200bとを有している。この主枠200の水平部200aの後端からシートレール202が後方へ伸びており、このシートレール202はシートステー203で主枠200の垂直部200bに支持されている。

【0009】主枠200の垂直部200bにはリヤアーム5の基端が支持軸11によってエンジン7と共に支持され、シートレール202の間に設けられたクロスメンバ204とリヤアーム5との間にはリヤクッション12が設けられている。

【0010】このエンジン7は2サイクルエンジンであり、その前側には排気管13が、後側には吸気管14がそれぞれ連結されている。この排気管13はエンジン7の右側方を通って後方に延びており、その後端部には排気サイレンサ16が接続されている。また、吸気管14には化油器17が接続され、この化油器17には燃料タンク18から燃料と、エアクリーナ19から空気とが送られ、それらを混合して可燃混合気を生成しエンジン7へ供給する。

【0011】車体フレーム2の主枠200からシートレール202の上部は前側から燃料タンク18、二人乗り用のシート20及び車体カバーであるリヤカバー21によって覆われ、このリヤカバー21の後端部には尾燈22が設けられている。また、シートレール202の下面にはリヤフェンダ23が設けられ、このリヤフェンダ23で後輪6によって跳ね上げられる泥から保護する。リヤフェンダ23はシートレール202へ直接に支持され

50

3

た固定フェンダ230と、リヤアーム5に支持された可動フェンダ231とからなっている。

【0012】固定フェンダ230は合成樹脂を射出成形して形成したもので、前記リヤカバー21及びシート20との間に空間を設けて種々の物品の物入れを構成している。すなわち、固定フェンダ230とリヤカバー21との間には整備用工具やチェーンなどの保守部品を入れる空間S1が設けられており、この自動二輪車では固定フェンダ230自体と、この空間S1と尾燈22の配線を収めるポケット230a及びそれらの間を区画する隔壁230bとが一体的に射出成形されている。

【0013】また、固定フェンダ230には空間S1の前方に位置して、シート20の下面にバッテリや工具など物品24を配置する空間S2が設けられ、この空間S2には収納箱25が配置され、この収納箱25はシートレール202に固定されている。この収納箱25には隔壁25aで収納部25b, 25cが区画され、この収納部25b, 25cにはそれぞれ物品24が収納される。この収納箱25の一方には切欠25dを有する舌片25eが形成され、他方には係止片25fが形成されている。

【0014】この収納箱25に収納された物品24はゴムバンド26で収納箱25に固定される。このゴムバンド26の両端にはリング26a, 26bが取付けられており、この一方のリング26aを収納箱25に設けた舌片25eに係止し、ゴムバンド26の他方のリング26bは収納箱25の係止片25fへ外れないように取付けられる。すなわち、ゴムバンド26の一端のリング26aは収納箱25の舌片25eに係合させた後、図6で示すように、固定フェンダ230をシートレール202の下方から矢印方向へ持ち上げて取付けると、その上部に突出形成した突起230cが収納箱25の舌片25eの切欠25dに挿入され、その突起230cによって抜け止めがあるので、以後、固定フェンダ230cを取外すか、収納箱25自体をシートレール202から取外さない限り、ゴムバンド26が脱落することはない。

【0015】なお、この実施例では収納箱25に2個のバッテリや工具等の物品24が収納されているが、この大きさが著しく相違すると図9中、二点鎖線で示すように、小さい方の物品24の取付けが緩くなるので、収納箱25に設けた隔壁25aに透孔25gを設け、ゴムバンド26を通過させると、同図中、実線で示すように、2個のバッテリ、或いはバッテリとその他の工具等の物品24との双方の取付けが確実になれる。なお、図中の27は物品24を緩衝的に支持するスポンジ状の座板である。

【0016】また、固定フェンダ230と協働して空間を形成するリヤカバー21にはシート20の後席近傍位置に凹部21aを設け、この凹部21aにグラブバー28を配置している。このグラブバー28は乗員によって

4

把持される把持部28aと、その両端に連結された支脚28b, 28cとからなっており、シートレール202へ後上がりに斜めに配置され、後方の支脚28cが凹部21a内に位置している。すなわち、図10及び図11で示すように、グラブバー28の支脚28bはシートレール202の側面に溶接されたブラケット29に固定されたナット30にボルト31で締め付け固定され、支脚28cはシートレール202の上面に溶接されたブラケット32に固定されたナット33にボルト34で締め付け固定されている。

【0017】このように、グラブバー28はシートレール202へ後上がりに斜めに配置され、後方の支脚28cが凹部21a内に位置しているため、グラブバー28がリヤカバー21から側方に突出することが抑えられ、車両の停車中、運転者が車両に跨がろうとして脚を後方へ上げるとき、脚が引っ掛けになることがなくなる。また、シート20の後席近傍位置に設けた凹部21aにグラブバー28の後方の支脚28cを配置することで、凹部21aでグラブバー28を把持するスペースが確保され、グラブバー28が握り易い。

【0018】また、グラブバー28の支脚28b, 28cは、図12及び図13に示すようにリヤカバー21に銹包されたナット35, 36にボルト37, 38で締め付け固定されている。この場合もグラブバー28の一方の支脚28cは凹部21a内に位置しているので、グラブバー28の外方への突出量が減じているにも拘わらず、グラブバー28の把持部28aとリヤカバー21との隙間は従来と同様に比較的大きく設定することができる。

【0019】可動フェンダ231はリヤクッション12が組付けられた状態のまゝ着脱できる。すなわち、可動フェンダ231には図14に示すように、前部に透孔232が設けられており、この透孔232をリヤクッション12が貫通している。このため、そのままでは可動フェンダ231を着脱することはできないが、その透孔232には前端部に通じる着脱用スリット233が設けられている。よって、可動フェンダ231を取外すには、まず、取付ボルト（図示していない）を外し、着脱用スリット233の部分がリヤクッション12の細い部分を通過するよう傾ければ後方へ抜き取ることができるし、逆の工程を経て取付けることもできる。

【0020】

【発明の効果】この発明は以上のように、車体カバーのシートの後席近傍位置に凹部を設け、この凹部にグラブバーを配置したから、グラブバーは車体の外面をなす車体カバーから側方へ突出する部分が少なくなり、運転者が操作ハンドルを握って足を上げ、着座しようとするとき邪魔になることがない。また、グラブバーは従来と同様の高さが与えられているから、後席の乗員が走行中にそれが掴みにくい不具合を解消できるなどの効果を奏す

る。

【図面の簡単な説明】

【図1】自動二輪車の側面図である。

【図2】その一部の平面図である。

【図3】図1の要部を示す拡大側面図である。

【図4】図3の平面図である。

【図5】固定フェンダの一部を示す外観図である。

【図6】収納箱の取付け状態を示す図である。

【図7】収納箱の組立過程を示す図である。

【図8】図7の一部の平面図である。

【図9】収納箱の他の実施例を示す断面図である。

【図10】グラブバー取付構造を示す平面図である。

【図11】図1のX I-X I断面図である。

【図12】グラブバー取付構造を示す他の実施例の外観

図である。

【図13】グラブバー取付構造を示す他の実施例の断面図である。

【図14】可動フェンダの一部を示す平面図である。

【図15】従来のグラブバー取付状態を示す外観図である。

【図16】従来のグラブバー取付状態を示す断面図である。

【符号の説明】

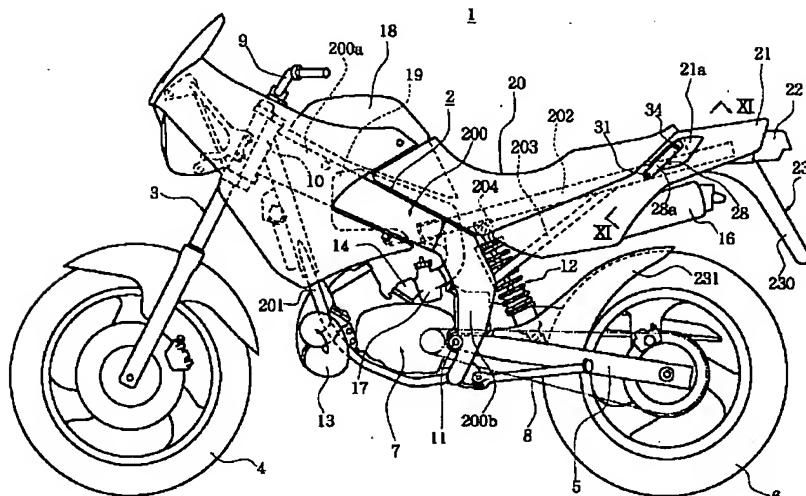
10 21 リヤカバー

28 グラブバー

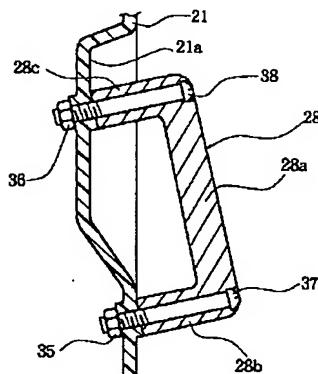
202 シートレール

21a 凹部

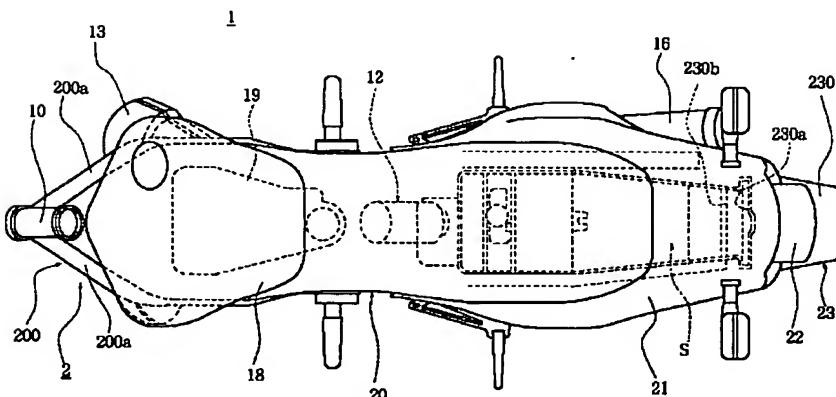
【図1】



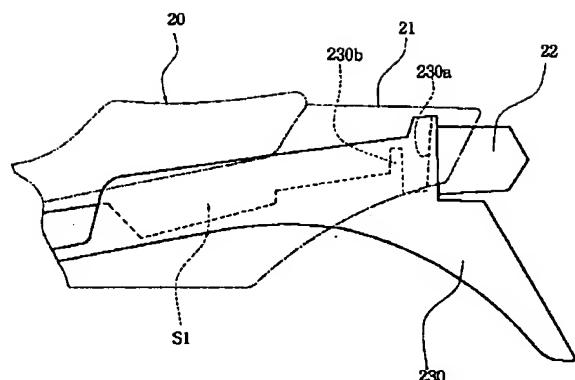
【図13】



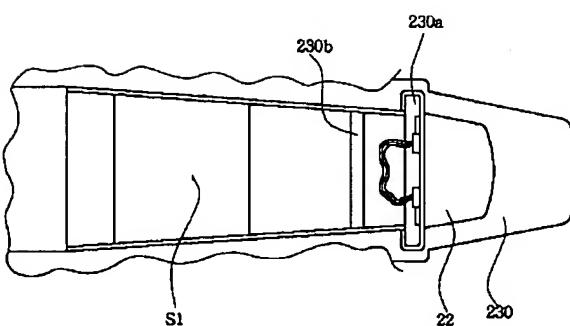
【図2】



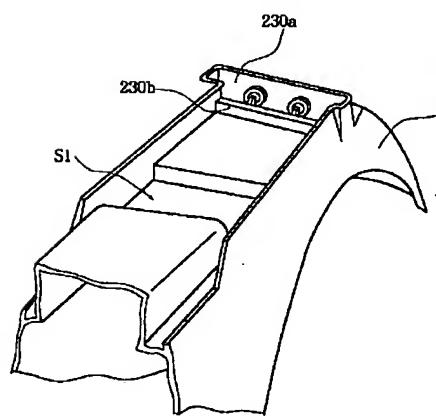
【図3】



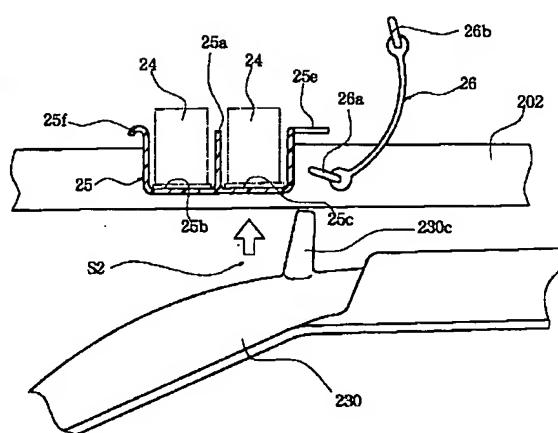
【図4】



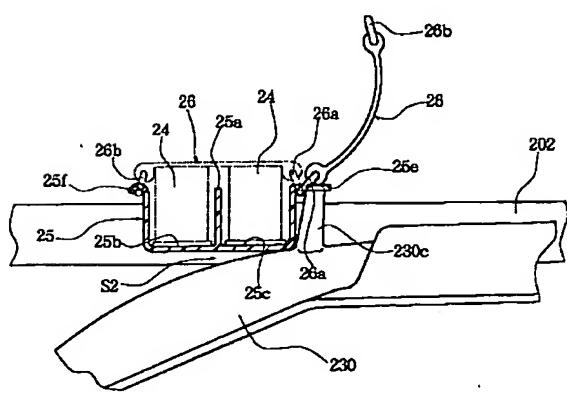
【図5】



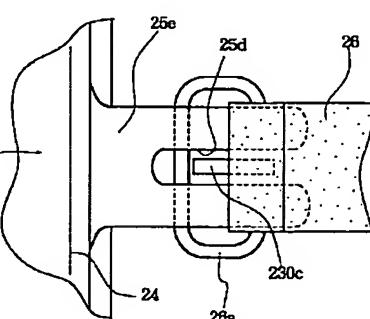
【図6】



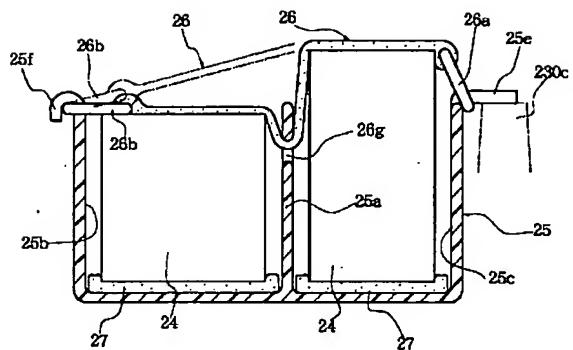
【図7】



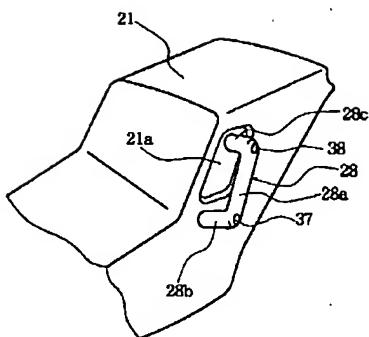
【図8】



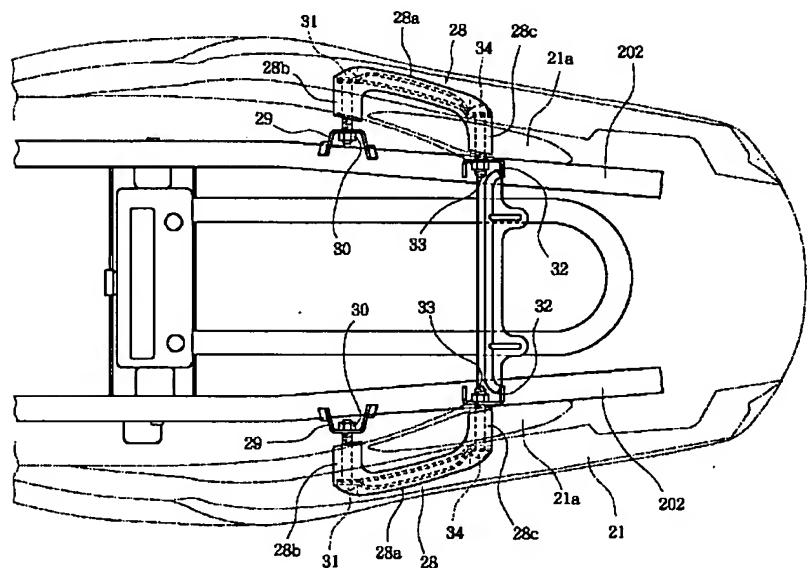
【図9】



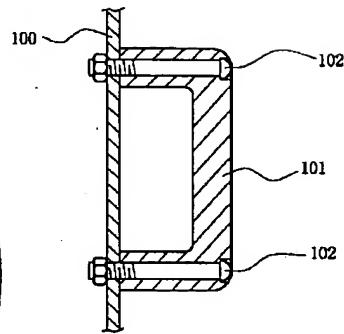
【図12】



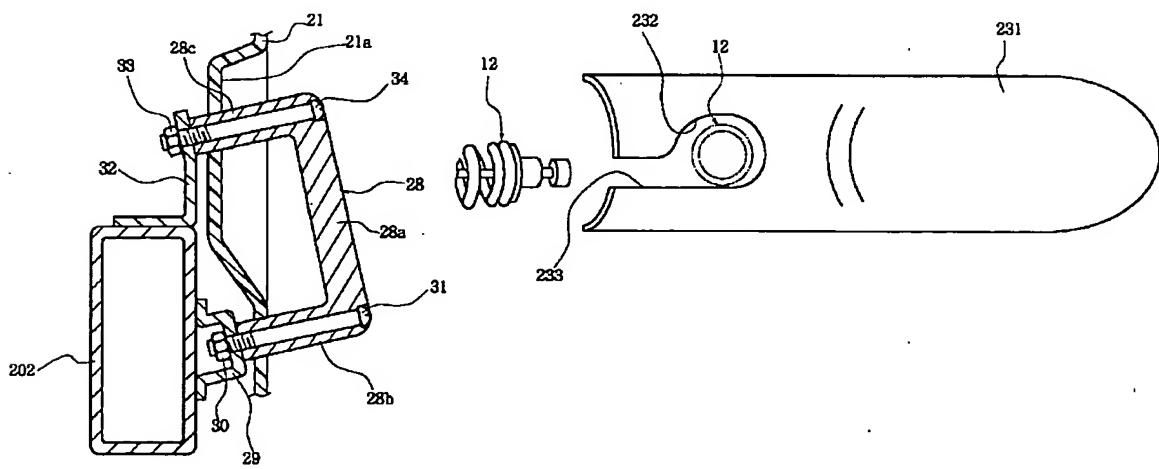
【四】



〔図16〕



【図11】



【図14】

【図15】

